希望のひかり 第37回

市が実現に向けて取り組んでいる「国際リニアコライダー（以下、ＩＬＣ）計画」について最新情報をお届けします

「ＩＬＣ科学少年団」東北ロケ

全国各地のケーブルテレビ局で放送中の、ＩＬＣ紹介番組「ＩＬＣ科学少年団」の東北ロケが８月18日・19日に行われ、市内でも、水沢駅や水沢駅通り商店街、奥州宇宙遊学館などで撮影が行われました。

このうち、市少年少女発明クラブ（佐藤剛会長）で行われたロケでは、クラブ会員が作ったさまざまな「発明品」やクラブの取り組みが紹介されました。

今回撮影が行われた番組は、10月以降に全国のケーブルテレビ局で放送されるほか、インターネット動画サイト〝Ｙｏｕ Ｔｕｂｅ〟で配信される予定です。

発明クラブでの撮影の様子

水沢江刺駅東口に、普及啓発看板を設置！

水沢江刺駅の利用者や、10月に開催される希望郷いわて国体・希望郷いわて大会で本市を訪れる人などに広くＩＬＣをＰＲするため、同駅東口側駐車場内に、ＩＬＣの普及啓発看板を設置しました。看板は横約７㍍と大型で、駅東口を通過する際に、目に留まりやすい場所に設置しています。

市では今後も、市の内外へ向けたＩＬＣの普及啓発に取り組んでいきます。

ＩＬＣ絵画コンクール作品募集中！

小学生を対象に、ＩＬＣを多くの人に知ってもらうための作品や、ＩＬＣによって変わる未来をイメージした作品など、希望あふれる絵画を募集しています。募集締め切りは10月末まで。ぜひ家族でＩＬＣとまちの未来像について考えてみませんか？

■**規格**　①応募者の自作で未公開の作品（１人１点）②作品の裏面に市町村名、学校名・学年、氏名、性別、作品タイトル、コメントを記載　③４つ切り画用紙またはＢ３判用紙を使用（低学年は８つ切り画用紙またはＡ３判・Ｂ４判用紙も可）④彩色材料・色数は自由、色画用紙の使用も可　⑤キャッチコピーなど文字を入れても可

■**入賞作品数・副賞**　低学年（１～３年生）の部と高学年（４～６年生）の部で次の入賞作品を選考　①最優秀賞１点（図書カード１万円分）②優秀賞３～５点（図書カード５千円分）③佳作５～８点（図書カード３千円分）④審査員特別賞３～５点（図書カード千円分）

■**応募方法**　応募者が通う小学校に10月31日㈪までに提出

■**問い合わせ**　県南広域振興局経営企画部企画推進課（☎㉒２８１２）

ＩＬＣキャラバン

県が大学などと連携して行っている「ＩＬＣキャラバン」では、さまざまなメニューで講師派遣を行っています。職場や地域の集まりなど、いろんな機会に活用してみませんか。

メニュー（例）

□外国人と語ろう

外国人による、ＩＬＣの概要や、外国人受け入れをテーマとした意見交換を行います。町内会などを対象とし、公民館などの身近な施設で開催します。

□専門家の話を聞こう

研究者がＩＬＣの概要などを説明します。

※メニューは一例。内容や費用、場所などは応相談。

■問い合わせ
県庁科学ＩＬＣ推進室（☎019－629－5217）

本コーナーでは、ＩＬＣ計画について皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽に質問ください。
■問い合わせ＝本庁政策企画課ＩＬＣ推進室（内線412・415、FAX㉒2533、✉ilc@city.oshu.iwate.jp）

Oshu Ambassador

大使の横顔 vol.6

奥州大使

市のＰＲを行っている奥州大使の皆さんを紹介するこのコーナー。６回目は落語家・三遊亭楽麻呂さんです。

三遊亭楽麻呂さん

さんゆうてい・らくまろ
昭和38年船橋市生まれ
落語家
高校を卒業した昭和57年に５代目三遊亭圓楽の下に入門。61年に楽麻呂に改名。平成３年真打昇進。28年６月ポドゴリッツァにてモンテネグロ独立10周年記念独演会を開催。円楽一門会事務局長

人とのつながり 本市とのつながり

「落語家になったとき、父の同級生の皆さんが後援会を作り、落語家として育ててくれた」――。父親が水沢区出身の三遊亭楽麻呂さん。真打になれたのは後援会の人たちのおかげと感謝します。

父親の兄弟など近しい親族は皆東京周辺へ移住し、すでに市内にはいません。それでも、後援会という人の縁が、楽麻呂さんと本市をつなぎます。「後援会がきっかけとなり毎年来るようになりました。奥州の人はすごく人情豊か。つながりを大事にしてくださる」と語ります。

人とのつながりから始まった水沢区佐倉河の安養寺での落語会でも「後からこちらのお寺に先祖が眠っていることがわかり、奥州市をより身近に感じました」と本市とのつながりを実感しています。

落語家は一生の職業

中学のとき、先生が持ってきた落語のレコードに、雷に打たれたほどの衝撃を受けたという楽麻呂さん。以来、落語家を一生の職業と志し、落語の道に励んできました。

そんな楽麻呂さんの大切な思い出は、真打になって間もないころに市文化会館で落語を披露したこと。「水沢だけでなく奥州市全域からのお客さんで満員になった」と強く心に残っていて、師匠から最初に教わった「金明竹（きんめいちく）」で喜んでもらったのが忘れられないそうです。

これからの目標を「古典落語をさらに覚えて、自分らしい落語をできたらいいなと。海外にも発信していきたい」と語る楽麻呂さん。本市のＤＮＡを胸に、日々の稽古に励まれています。

インタビュー動画をYouTubeで公開中

―こんなことも聞いてみた！―

Q.奥州市で好きな食べ物は？

リンゴとお米。
リンゴは、サンフジが甘みと酸味のバランスが良くて好きです。いただくこともありますが、ちゃんと買っています。

公演情報「円楽一門会」

楽麻呂さんがトリを務めます。
■日時　10月９日㈰　午後６時～（開場：午後５時半）
■入場料　1,500円（前売り1,200円）
■場所・問い合わせ　お江戸両国亭（☎03-3635-7619　※毎月１日～15日・午後５時～８時）

※広報掲載に合わせて奥州大使の皆さんの動画を公開予定。みんなで「奥州市」をチャンネル登録しよう！

奥州市　ユーチューブ　検索